

## 〔検討課題3〕「国の発展の基幹としての科学技術」の重点化における取扱い（2）

- ◆ 「国の発展の基幹としての科学技術」を政府研究開発投資の戦略的重点化の検討の中で取り扱うに当たっては、我が国の発展の基幹となる科学技術を包括的に概念整理するのではなく、政府が研究開発投資すべき科学技術の中で一定の限定のある明確な概念として考えることで、有効性を発揮するのではないか。

### <一つの考え方として>

- ◆ 科学技術・学術審議会において文部科学省が担うべきとして例示されている国家基幹技術例が、いわゆるビッグプロジェクトであり、その背景となる第2期での状況を勘案すると、戦略的重点化との関係では、次のような考え方が可能かどうか検討対象となりうるのではないか。
  - ✓ 第2期基本計画の下では、これまで相対的に日本が弱かったボトムアップ型の研究への投資が進められた。これを引き続き推進していくとしても、政府がイニシャティブをとって明確な目的・長期的戦略の下に大規模な資金を投入して推進するトップダウン型の大型研究開発への配慮が相対的に手薄になってきた可能性がある。
 

国が一貫した推進体制を組織し、その主導で行うこのような長期・大規模のプロジェクトは、「基幹性」の最も明確な部分とも考えられるが、これを第3期基本計画では十分な政策的配慮・検討を行う対象とすべきではないか。
  - ✓ ただし、その場合においても国の機関が主導して行う長期・大規模のプロジェクトの予算の中にも右肩上がりの投資サイクルでないものや、既存の蓄積を活用すべきものも含まれており、全ての予算を拡充するのではなく、選択と集中により、第3期において一定範囲の予算を重点的に拡充すべきではないか。

- ◆ こうした考え方に立てば、前述の分野内での重点化手法の考え方で示された戦略重点科学技術の考え方の下で、精選された「国の発展の基幹としての科学技術」が整合的に位置付けられるのではないか。これにより、第3期における投資重点化戦略の中での推進が可能となるのではないか。
- ◆ なお、国の機関が主導して行う長期・大規模のプロジェクトとして「国の発展の基幹としての科学技術」を精選する場合、「基本方針」において、「厳格な評価を行った上で研究者の発意を基に、国としてもプロジェクト間の優先度を含めた判断を行い」進めることが重要とされているビッグサイエンス及び科学技術基盤整備として推進することとされている先端大型共用研究設備との関係整理を検討する必要はないか。